

2001年のアマチュア時代にパートナーを組み、2006年にターンプロ。常に世界のトップ・ダンサーとして活躍してきた二人は、5月のブラックプールで突然の引退表明をしました。パートナーを組んで13年、そして結婚して5年目を迎えた二人に心境を伺いました。

取材・文／神元誠・久子 写真／神保敬治

協力／DSI-LONDON

これまでの軌跡をたどる

引退記念インタビュー

セルゲイ・サルコラ & メリア



思い出の地 ブラックプールで

「なぜ、世界のトップで円熟した踊りをしているこの時期に引退を?」と驚いています。いつ引退を決心したのかも含めて教えていただけませんか?

メリア(以下M) それについてお話しできることは、「私たちにとって一番適切なときだった」ということで、それ以外はとてもプライベートなことなので、誰にもお話ししていない。「めんなさいね。

セルゲイ(以下S) 競技生活動を送っていると、「もういいだろう」と靴を脱いで新しい優先事項に取り組もうとする時期が来るものだし、競技会にはたくさん出てきたしね。というところで、この先是ダンス以外のことなら何でも聞いてください。(大笑)。

――計画が大幅に狂ってしま

いますね。では(笑)、最後の

競技会をブラックプール(全英選手権)に選んだ理由は?

S 子供のときに初めて優

勝した思い出の場所だし、広

いフロアも会場の堂々とした雰囲気も大好きなんだ。ファイナルになると全員立ち上がりて応援してくれる

し、ビル・アービンの司会の場面は今も目に焼き付いているし……。そうした思い出がある最高の場所なので、引退はブラックプールでと決めたよ。でも、引退のことはごく少数の関係者にしか知らせていかなかつたんだ。ちなみにメリアの特別な場所はU.K選手権だけだね。

M 私はU.Kの思い出がすごく強いの。ダンスを始めて、イギリスに行くお金もなかつた頃、私の先生が見させてくれたビデオがU.K選手権だった。それを見て、コールされてあのステージ上から出でてくるのが私の夢になつたの。

――試合中はどんなことを考えていましたか?

S いろんな感情が湧いてこなかつたと言うと嘘になるけど、試合に集中するようにしていました。

――ファイナルのジャイブが終わると、マーカスから引退について紹介がありました。

M 引退のアナウンスの後で



族を持つにはそれなりの準備が必要だしね。

実は彼女、僕の衣装もデザインしているんだよ。

——お二人の踊りを見ていて、いつも衣装が奇抜だと感

——男性の衣装も?!

M じていますが。

(笑)。彼女のデザインしたドレスだけじゃなく、僕のシャ

おるので、衣装は全部和の
デザインよ。その私のアイ
ディアや気持ちを完璧にく
れなくつけて仕上げてくれる

うも結構二匹 それでしるく
らしいなんだ。僕はその才能を
認めているから一切口を挟ま
ない。別に色が氣に入らないよ

ビックキーには素晴らしい創
造力がある。彼女のチームは
本当にすごい。さらにありが
たいことに、スケートでもジャ

理解するようにしてるんだ。もし自分で決めていたら、いつもいつも黒になってしまふだろうしね。

作り上げてくれて、DS-Iの

るとしたら？

S..彼女のアイディアは

ブラックプールの後、やりた

けつこうもんじゆ

うしたすべてが一つの踊りと

(笑) しかも頻繁に新しいのを作りたがるしね(大笑)。

なって出た感しかしなれ
音楽は最高だし、私たちがフロ

あのアノ髪巻綱

方に戻ったことない丈である

ているのも、そうした技術力

で初めてブライナルに残った

S ..その通りだね。メリアの
使つた衣装が半年後の番組で

にファイナルに入つたのも

使われたりもしているんだ。

ある。今年のHJKでは素晴らしい

踊りが革命的に変わったのは 英語が分かるようになつたから

しい時間を過ごせて本当に幸せだった。

S.. そう考えていくと、どの試合にも特別な思い出があるね。武道館での思い出もすごいよ。マニラから乗った飛行機が、ニュースになるくらいの乱気流に遭って、飛行機を降りたらフラフラの状態。

M.. そのまま翌日は試合。でも、それまでで一番いい踊りができたよ！（大笑）

S.. 亂気流のおかげさ。あまりにもひどいコンディションで、やけくそだったのが良かったんだろうね（大笑）。

——熱でフラフラのまま競技会へ出場したら、今まで一番良い成績を取つたというような話はよく聞きますからね。S.. それは言えてるよ！

——今までの振り付けはどうなたが？

S.. プロになつてからは基本的に僕が5種目全部作っています。僕たちのパソの振り付けは長い間ほとんど変えて

いないけど、それは、変更することが目的になつては意味がないと思っているから。振り付けを変えるときはそれなりの理由がないとね。

M.. 振り付けに対する考え方方は人それぞれだと思うの。私たちが考えることは、自分たちに減茶苦茶すごい究極の振り付けは必要じゃないといふこと、そして、自分たちの振り付けの中で何を表現するかを考えている。ストーリー性とか男と女とか、ボディの表現や考えの表現などのことね。そうしたことに関心があるの。今この場所であなた

はコーヒー、セルゲイはコーグ、私はオレンジジュースを飲んでいるけど、誰が正しいということがないように、振り付けが色々あるから踊り手の個性が表れるし、見ている人たちも楽しい。

——熱でフラフラのまま競技会へ出場したら、今まで一番良い成績を取つたというような話はよく聞きますからね。S.. 英語は最低条件ね。

M.. 英語は最低条件ね。S.. 僕も最初は全然ダメだったけど、コーチたちの話が深くわかつてくるようになると、踊りが革命的に変わつていったからね。

——コーチの話を引き出せないことが多い、未来がある

M.. 日本のバレエ・ダンサーたちはあんなに世界で活躍しているじゃない！日本人はきちんとやる性格なので、小さいときからダンスを始め、英語を覚えるようにしていく

——お二人がラテンを踊ろうとした理由は何ですか？ そしてその魅力は？

M.. 子供の頃はラテンもボルルームも両方とも踊っていたのよ。

S.. でも僕はあるのと同じボジ

本人選手何組かにダンスを教えているけど、継続的じゃないので、私たちの意見を充分に伝え切れないのが難点ね。

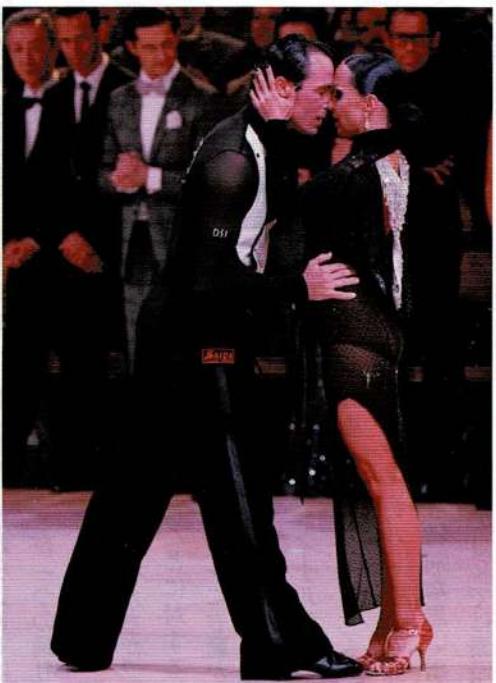
S.. コミュニケーションが取れない問題が結構大きいかな。ほとんどの人はほんの少しの英語しか話せないし、僕たちの日本語はゼロ以下のマイナスだしね（大笑）。

ただ踊つて見せるることはできないも、伝えたいことはそのカップルによって当然変わるので、やはり英語でコミュニケーションを取れるようになるのが、上達の必須条件だと思う。

M.. スペースのことも踊りにハートを注入するにも、コミュニケーションができるこそですからね。深いところを理解しないで踊りだけをコピーしても、それは中身のない物になりますわ。

S.. 外国人コーチは皆、「英語を勉強しなさい」と、同じように答えると思うよ。

M.. 日本のバレエ・ダンサーたちはあんなに世界で活躍しているじゃない！日本人はきちんとやる性格なので、小さいときからダンスを始め、英語を覚えるようにしていく



(右)5月の全英選手権でラスト・ルンバを披露。仲間たちからは花束が手渡され、誰もがその引退を惜しんだ。
(左)2006年の初登場以来、毎年出正在しているワールドスーパースターズ(P30参照)。今年も夏の終わりに華を添えた。
写真／ロブ・ロンダ(右)、関口誠(左)

ね。アクティブに動き回っている子供だったので、ラテンの方が向いていたのさ。より自由に踊れる感じたしね。

M..ボールルームの選手が

聞いたら怒るかもしれないけど、ボールルームよりフリーに踊れて、表現できる部分が多いのが魅力ね。そんなことを言つてしまつたけど、マーカス&カレンや他のトップ・ダンサーたちの踊りは素晴らしい、そ

うだ。それに、これは人から聞いた話だけど、競技としてのラテンはボールルームほど歴史がないんだね。ブラックプールではジエネラル・ダンスでしかなかつたみたいだ。

——ラテンが競技種目になつたのは、確か1953年のインターナショナルからでしたね。一方、ジエフリー・ハーン氏は彼のテキストの中でスは成熟した」とまで書いているくらいです。お二人はそ

——今のすごいレベルの上を想像するのが難しいですよ。振り付けにしても、スピードにしても、ス

S..でも、音楽より早くは踊れないからね（大笑）。

——「あの二人が戻ってきた」という感じでしたね！

M..本当にそう。ボールルームも変化してきているけど、

ラテンの場合は服装、踊りのスタイル、振り付け、音楽、あらゆる点で変化が著しくて、10年も経つと大きく違つてい

る。しかも衣装の選択肢が広いし、自由度が高いのも魅力だ。それに、これは人から聞いた話だけど、競技としてのラ

テンドラード・ドニー&ゲイナー、ブライアン&カルメン、名前を挙げたらきりがないけど、そうした人々はそれぞれの時代でそこかたし、しかもみんな個性的だったね。そうした歴史を引き継いで今の僕たちがいるんだ。

——今、このスピードの本質は音楽を感じて、動きを通して、自分を表現することができたからね。世の中の生活のテンポがのんびりしていた頃にはそのような踊りが見られた。けれど車のスピードが向上し、インターネットの接続も早くなつて、世の中のス

ピードがどんどん早くなつていく中で、ダンスもスピード化してきたのだと思う。だから今後も世の中の変化に合つた、次の世代の踊りを牽引する人がきっと出てくる。もしかもしれないね。それを楽しむにしていましょう。



Sergey Sourkov & Agnieszka Melnicka

2001年パートナー結成。同年の全英選手権アマ・ラテンでトップ18入り。ターンプロした2006年のUK選手権でファイナル入り。近年の全英では3位につけていた。二人の日常会話は、ロシア出身のセルゲイに合わせて、ポーランド出身のメリアがロシア語を使っている。

S..それは嬉しい。でも、その時代その時代で最高の踊りがあつたんだ。ウォルター・マーティン&ドニー・ゲイナー、名前を挙げたらきりがないけど、

——ラテンが競技種目になつたのは、確かに1953年のインターナショナルからでしたね。一方、ジエフリー・ハーン氏は彼のテキストの中でスは成熟した」とまで書いているくらいです。お二人はそ

——今の若者たちの踊りを見ていると、身体はしっかりと見ていて、スピードはあるし、振り付けもすごい。でも、ダンスというものを考えると、何かが足りない。多くのことを失つていている気がするのも事実よ。そういうことをもう一度考える転機に来ているのかもしれないわね。スピードだけではどうしようもないのだから。

S..フィガーレの特性も音楽性も失つてしまうのは、あまりにもスピードを求め過ぎて

～ ブラックプールで読み上げられた ～ 二人からのメッセージ

この特別な旅が終わろうとしているこの瞬間、その気持ちを伝える言葉が見つかりません。二人の人生はダンスという空気で呼吸しているようなものでした。私たちはとてもラッキーでした。なぜなら途方もなく優れた先生たちにめぐり逢い、大切な友人に囲まれ、素晴らしい観衆の人たちがいたのですから。そうした皆さんに、心からお礼申し上げます。

二人には涙があり笑いがありました。悲しみがあり、喜びもありました。そして、輝かしい瞬間の経験も。そうしたすべてが経験として刻み込まれています。

作家のガブリエル・ガルシア・マルケスはこう書いています。「人生で何が起つたかは問題ではない。あなたが何を記憶するか、どのように記憶するかが問題なのだ」と。私たちは今、この輝かしいフロアを去りますが、後悔はありません。ここで繰り広げられた数々の思い出を忘ることはないでしょう。そしてそれが、とてもとてもありがとうございます。ありがとうございました。

セルゲイ & メリア

